

2020年7月

No.60

やかまし ネットワーク

岩波書店 児童書編集部



『かじ屋と妖精たち』より

もくじ

創刊70年を迎えました／復刊のお知らせ (2)

少年文庫の新刊から (3)

少年文庫のサイトがオープン／〈少年文庫の新定番〉(4-5)

「心ゆさぶる、さし絵の世界！」パネル展示をしてみませんか (6)

かぞえるのって楽しい！／世界でいちばん高い場所へ (7)

やさしい気持ちに包まれて／自然のなかで生きる (8)

挑戦の練習場へようこそ！／「物事は見た目と違うんだよ」(9)

本に隠されたメッセージ／傷つけるのも、癒してくれるのも人 (10)

ほんとうのリーダーのみつけかた／ジュニア新書編集部より (11)

夏の少年文庫フェア／編集後記 (12)



創刊70年を迎えました

岩波少年文庫は、敗戦後まもない1950年のクリスマスに創刊されました。最初の書目は『宝島』『あしながおじさん』『クリスマス・キャロル』『小さい牛追い』『ふたりのロッテ』の5冊。創刊にたずさわった石井桃子さんは、海外で長く読みつがれている作品から、自分にとって「喜びの訪れ」と感じられる本を選びぬき、編集し、少年文庫の礎を築きました。

古今東西の名作を美しい日本語で届けるという基本姿勢はそのままに、リニユールや新訳への切り替えなどもへながら刊行をつづけてきた少年文庫。幸いにして3世代にわたる多くの読者に愛され、収録作品数は460を超えました。

今年、創刊70年のキャッチフレーズは「冒険してる？」です。これは、子どもとかつて子どもだった人への素朴な問いかけでもあり、同時に、少年文庫で冒険してみたい？という誘いでもあります。はじめて見る風景、はじめて出会った人か、はじめて味わう気持ち……。読む者を夢中にさせ、成長をさせてくれるすぐな冒険の物語が、少年文庫にはたくさんあります。

子どもたちが「喜びの訪れ」を感じられる本と出会えますように！ そんな願いをこめて1冊ずつ本を作り、ご紹介してまいります。またこれからも少年文庫への変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

冒険してる？

復刊のお知らせ

大変お待たせいたしました！ 昨年ご協力いただきましたアンケートでリクエストの多かった書目の中から、7書目を復刊することが決まりました。この機会にお早めにお求めください。

●ぼくたちもそこにいた

●若い兵士のとき

(リヒター作／上田真而子訳) *5月に復刊しました

『あのころはフリードリヒがいた』に続く、ナチス時代を生きたドイツ人少年の体験を克明に描いた自伝的作品。戦争状態の中で人間性を失わずにいるのがどれほど難しいかを淡々と突きつけるリヒター三部作、通して読むことをおすすめいたします。

さらに、左記の5冊を10月中旬に、それぞれ特製カバー付きで復刊する予定です。どうぞお楽しみに！

●真夜中のパーティー(ピアス作／猪熊葉子訳)

子どもの日常に起きる不思議なできごとを描く短編集。

●空とぶベッドと魔法のほうき(ノートン作／猪熊葉子訳)

修行中の魔女と3人きょうだいの、ゆかいな空想物語。

●農場にくらして(アトリー作／上條由美子、松野正子訳)

田舎の暮らしと四季の自然と。アトリーの自伝的作品。

●お話を運んだ馬(シンガー作／工藤幸雄訳)

お話の名手が子どもたちに伝え歩く滑稽話など8編。

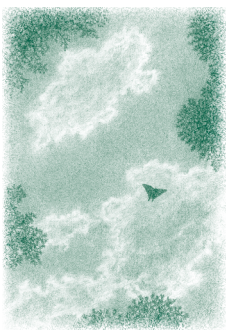
●けものたちのないしよ話——中国民話選(君島久子編訳)

中国のさまざまな民族に伝わる楽しい昔話27編。

少年文庫の新刊から

● チョウはなぜ飛ぶか (日高敏隆著)

動物行動学者・日高敏隆さんが、子どもたちにチョウのなぞを追う研究の日々を語ります。生きものを見つめる原点には、野山をかけた子ども頃の疑問がありました。「どうしてアゲハはいつも同じ道を飛ぶんだろう？」少年は夢中でそのわけを突きとめます。



「ぼくはまだ研究のとちゅうにあることを書きたかった。失敗やばかばかりいまちがいを書きたかった」と日高さん。エッセイの名手としても知られる文章は、わかりやすくユーモラス！オスがどうやってメスを見つけるかなど、チョウの生態に迫る実験の日々が推理小説のような臨場感でつづられ、その場で実験に参加しているようにわくわくしながら読み進められます。

単行本の初版は1975年。たくさんのひとが影響を受けた「名著」を再び子どもたちへ。日高さんの公平な自然の見つめかた、ものの考えかたに触れてもらえたらと願います。装画と解説は、情熱の絵本作家館野鴻^{たくの}さん。表紙には羽化したばかりのナミアゲハを描いてくださいました。

【小学5・6年から】



● かじ屋と妖精たち—イギリスの昔話 (協明子編訳)

少年文庫にはさまざまな民話集がありますが、じつはこれまでイギリスの本がありませんでした。そこで協明子さんにお願ひして、少年文庫オリジナルのアンソロジーを編んでいただきました。

「ジャックと豆の木」「三びきの子ブタ」といった有名なお話から、おそろく本邦初訳となる「鳥の合戦」という、かのトールキンが『妖精物語について』でもふれていたスコットランドの長大なお話まで、四つの底本から選りすぐった31編をたつぷりと収めます。

ゆかいで短いお話、ちよつとハラハラするお話、知恵が役に立つお話、こわくてドキドキするお話、ふしぎなことに出会うお話、妖精たちが出てくるお話、女の子が幸せをつかむお話、大冒険のお話、すてきな幸運にめぐりあうお話、という具合に全体を9グループに分け、興味を惹かれるところからでも楽しめるように工夫しました。読んでもよし、聞いてもよし、どのお話もおもしろさは折り紙つきですよ！

イラストは堀川理万子さん。優美な線でユーモアのにじむイラストをたくさん描いてくださいました！

【小学4・5年から】 *9月刊行予定 (愛宕)



岩波ジュニア新書『世界の神話』が大好評の沖田瑞穂さん編訳で、少年文庫に『インド神話』が初登場！ 悠大でふしぎなおはなしをたくさんご紹介しします。10月刊行予定。



少年文庫のサイトがオープン！

少年文庫70周年の特設サイトが、いよいよオープン。テーマ別のおすすめタイトルや歴代人気ベスト10、リレーエッセイや書店レポート、記念フェア情報などを、ご紹介してまいります。

ぜひ訪れてみてくださいね。

<https://www.iwanami.co.jp/shoubun70>

キャッチフレーズの「冒険してる？」をイメージしたトップページ画像の撮影を、『物語のティータイム』を撮られた写真家・濱津和貴さんにお願いました。撮影場所は下北沢の「ダーウィンルーム」。1階のショップでは選りすぐりの書籍、動物剥製などの標本や研究生活に便利な道具が販売され、2階のラボでは研究者を招いたりベラルアート・カフェが行われています(読書会やイベントなどの情報はお店のFacebookを、ご覧ください)。店内と道具をお借りして、「冒険」したくなるようなすてきな写真を撮っていただきましたので、ぜひご覧ください！

web連載 少年文庫の 新定番

日頃子どもたちへ少年文庫を手渡してくださる書店や司書みなさんに、イチ押しの新定番を選んでいただきました。特設サイトにて、リレー連載が始まります。トップバッターの竹とんぼさんからのエッセイを、一部抜粋してお届けします。

実に簡単な、真つ当な生き方

子どもの本の店竹とんぼ

小宮楠緒さん
(熊本県阿蘇郡)

この作品には《うそつきフェットロック》《ペットの世話をわすれるレベッカ》《分解好きジェフィ》《こわりやフィビー》《さがしものが下手なモートン》という親が手を焼く5人の問題児が登場する。

実は39年前、当時息子たちが小4、小1、1歳半の時に、周りの反対を押し切って、熊本で子どもの本屋を始めた私たち夫婦は、悲惨な経営状態のなか、さて子育てはどうあるべきかなど考える暇もなかったというのが正直なところである。

今や竹とんぼ2代目となる長男はかつて学校が終わると、三男を連れてわが家に帰りオムツを替えていた。当時まだ布オムツで、トイレで汚物を洗い流そうとして、オムツごと流してしまったこともあったようだ。おかげで、中学になるころはしっかりと親の言うことを聞かぬ反抗少年になった。こ



事先を回り、《子連れ営業マン》という異名をいただいた。

かく言う私も、モートン君と同じで探し物にめっぽう弱い私がいくら探しても見つからないものを夫がいつも簡単に見つけてくれる。であるから、何かあるたびに我が子にとやかく言う資格があるかどうか、わが身を振り返らざるを得なかった。

子どもが母親の胎内から離れたら最後、親の思うとおりになるはずなどないということをまず覚悟しなければならぬのだ。ここに登場する子どもたちは特別手の付けられない子どもとは思えない。

例えば《分解好きジェフィ》、芝刈り機もミキサーも何もかも壊されて困ったお母さんは8人の子どもを持つグレッタさんに相談する。グレッタさんは、「4か月の赤ん坊を載せた乳母車に電動芝刈り機をくっつけて暴走させた」という一枚上手のわが子の話をしたうえで《ビッグル・ウィッグルおばさん》に預けることを薦める。

おばさんは、いろんな動物を飼い、一人で農場を営んでいるのだが、預かった子どもたちに、厳しいしつけをするわけでもなく、ましてや魔法を使うわけでもない。農場で、ごく

の作品を翻訳した二男は自由人、本人の名誉のために内緒にするが、思ってもよらぬいたずらや行動をしでかして親の度肝を抜いた。今や優しい育メンの三男は登園拒否児、仕方がないので夫が車の助手席に乗せて仕

ウェブ連載〈少年文庫の新定番〉は、毎月1回程度の更新予定です。お寄せいただいた熱いエッセイが続々登場しますよ。どうぞお楽しみに！

(ベティ・マクドナルド作／小宮由訳)

真つ当な、やるべきことをきちんとやっていく生活の中で子どもたちの、問題が治っていくのだ。その気になれば実に簡単なこの真つ当な生き方を思い出させてくれるユーモアたっぷりの作品だ。(2020年4月)

● ピッグル・ウィッグルおばさんの農場

● おとうさんとぼく
東京子ども図書館(東京) 護得久えみ子さん

● まぼろしの小さい犬
ちいさいおうち書店(長野) 越高令子さん

● みどりのゆび
スロウな本屋(岡山) 小倉みゆきさん

● 走れ、走ってにげろ
青猫書房(東京) 岩瀬恵子さん

● ガラガラヘビの味
元浦安市立中央図書館司書(千葉) 伊藤明美さん

● あのころはフリードリヒがいた
子ども富貴堂(北海道) 松浦みゆきさん

● ムギと王さまの本の小べや
代官山蔦屋書店(東京) 山脇陽子さん

● ふくろ小路一番地
教文館ナルニア国(東京) 川辺陽子さん

● 王への手紙

……And more!

心ゆさぶる、さし絵の世界！

パネル展示をしてみませんか？

少年文庫の魅力は、物語のおもしろさだけではなく、作品の世界観をいっそう際立たせているのは「さし絵」の存在です。「もっとさし絵にスポットをあてたい！」日頃、少年文庫を製作しているデザインチームの発案で、魅力的なさし絵と画家を紹介するパネルセットを作成しました。お申し込みいただいた後、データをダウンロードし、壁などに展示してご活用いただけます。画家たちの技や情熱にふれる機会をぜひ一緒に作っていただけましたら幸いです。



セット内容

- ・パネル展開催を知らせる看板
- ・下記5テーマそれぞれにつき、数タイトルのさし絵パネル（4.5枚）
 - ①知らない世界への冒険
 - ②主人公は動物たち
 - ③魔法は私たちのすぐそばに
 - ④描かれた子どもたち
 - ⑤画家で出会う少年文庫

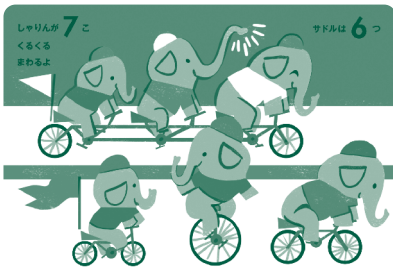
*パネルは順次作成中です

展示利用をご希望の方は、下記 URL より申込みフォームにご記入ください。追って担当者よりダウンロード URL をご連絡差し上げます。パネルデータとともにダウンロードされる「展示にあたってのお願いとご注意」をご参照の上、展示をお願いいたします。（個人の方への提供はいたしません）

お申込み URL

<https://www.iwanami.co.jp/shoubun70/form/>

ご応募をお待ちしております！



かぞえるのって楽しい！

いち、に、い、さ、く、ん！ 元氣よく数をかぞえるときの子どもの表情って、うれしそうでどこかほこらしげ。そんな子どもたちに贈りたい、ゆかいでポップな絵本ができました。

カンガルーの高跳び、クマの重量挙げ、カバの新体操、ワニの競泳、フラミンゴのシンクロ、シマウマのフェンシング……お気に入りを見つけたら、1から20までの数を指さしながらかぞえたり、いろんなスポーツを楽しんだり、自由に遊べます。

1985年生まれのフランスのイラストレーター、ヴィルジニー・モルガンさんの絵は、あざやかな色使いにのびやかな線と面のアートワークが印象的。どこか懐かしい画風は海外でも人気だそう。今回、ピンク、黄色、緑、青、黒、5色ぜんぶを特色(通常の印刷インクよりちょっとびりぜいたくな発色のよいインク)で印刷しています。赤ちゃんが好きなお色に反応して「こりこり」という嬉しいお便りも！ 数を覚えはじめたお子さんにも、運動不足の大人にもおすすすめです。(宮村)

◆かぞえてみよう

どうぶつスポーツたいかい

ヴィルジニー・モルガン文絵

石津ちひろ訳

21.4 × 16.1cm 41頁

▽本体1400円＋税 【3歳から】



世界でいちばん高い場所へ

シエルパの男の子、ポルパは、生まれたときからヒマラヤの山々をながめて育ってきました。荷物運びの仕事で体をきたえ、テンジンおじさんに認められたポルパは、念願のエベレスト初登頂をめざします。



登山家に注目が集まりがちなヒマラヤ登山で、縁の下の力持ちとして活躍するシエルパの人びとにスポットを当てたいという、著者の長年の思いが結実した(シエルパのポルパ)シリーズ、第一作です。写真家、石川直樹さんが子ども向けに初めて物語を書き下ろし、これが絵本デビュー作の梨木羊さんが、シエルパの人びとのあたたかい暮らしや、ヒマラヤの雄大な風景を描いてくださいました。読者をそのままヒマラヤ登山の冒険に連れ出してくれました。続刊『冬虫夏草と大きなヤク』『火星の山にのぼる』を現在準備中です。ご期待ください。(須藤)

◆シエルパのポルパ

エベレストにのぼる

石川直樹文／梨木羊絵

30.4 × 21.5cm 32頁

▽本体1800円＋税 【4歳から】



やさしい気持ちに包まれて



ある晩、空から落ちてきた赤ちゃん。

「ほしのこども」とよばれ、みんなに愛され、見守られながらもすくすく成長していきます。やがて年を重ねたほしのこどもは、すっかりちいさくなり、とつぜん姿を消してしまいましたが……。

人びとの関係性や背景などは語られません。こまかな設定が明らかでないことで、かえってこのコミュニティの人びとのすこやかなつながりが際立ちます。ちいさいものを見守り、たがいに気づかい、お年寄りをいたわる……あたりまえの風景かもしれないけれど、あたりまえがまならない今の世に、この絵本はやさしさの波紋をすつと広げてくれます。

オーストラリアの児童文学作家MEM・フオックスによる愛情豊かな言葉と、フレヤ・ブラックウッドのあたたかな絵で紡ぐ、ひとが想いあう姿。この心地よさは子どもたちにもきつと伝わりと願います。(宮村)

◆ほしのこども

MEM・フオックス文
フレヤ・ブラックウッド絵
横山和江訳

26.5 × 21.5cm 32頁

▽本体1600円＋税 【4歳から】

自然のなかで生きる

イギリス、スコットランドのはずれにあるセント・キルダ諸島は「世界のはての島々」と呼ばれます。荒れる海にかこまれ、百万羽もの海鳥があつまる世界遺産の島です。現在は無人島ですが、かつてここには人が住んでいました。電気も水道もなく、自然環境のきびしさは木も育たないほど。そんななかで、島全体がひとつの家族のように団結して海鳥を獲り、作物と家畜を育て、生きるための工夫をこらす——でも、そんなくらしは1930年を最後に失われてしまいました。

『セント・キルダの子』は、5歳で島をはなれた実在の少年、ノーマン・ジョン・ギリーズの目をとおして、島の生活と、それが失われてしまった歴史を伝えます。本書がデビュー作となる作者がノーマン・ジョンの子どもたち取材し、島を訪れて作った一冊です。

ページをひらくと、自然への驚きと、環境に適応する人びとのたくましさに圧倒されます。モノプリントという版画の技法で描かれる、美しい絵にもご注目ください。2020年のケイト・グリーナウェイ賞の最終候補にも選ばれています。(三輪)

◆セント・キルダの子

ベス・ウォーターズ文絵／原田勝訳

30.5 × 23.0cm 68頁

【小学2・4年から】 *9月刊行予定



挑戦の練習場へようこそ！



「物事は見た目と違うんだよ」

ハートを熱く揺さぶる、書き下ろし児童文学の登場です！

珠子はダブル塾通いをしている小学6年生。ぼんやりむかえた夏休みに、公園の砂場で無心に砂像を作る同い年の羽村ヒカルと出会います。成績トップクラスのヒカルは「戦争をなくすためにアメリカの大統領になる」という強烈な個性の持ち主。家庭環境も性格も異なるふたりの少女が、たがいの強さ、弱さに出会い、ますますぐに世界と向きあつていく姿をさわやかに描きます。

砂像とは、水を含ませて固めた砂山を削って作る彫刻のこと。砂像アーティスト兼チューバーを目指す勝田葉真とヒカルの砂像対決に巻きこまれた珠子は、ヒカルと《サンドイッチクラブ》を結成し、ペンギンの砂像作りにのめりこんでいきます。

新しい自分に変われる？ やりたいことって？

今という時代を生きる子どもたちへのエールに満ちた、長江優子さんの快作、ぜひご注目ください。読みだしたら止まりませんよ！
装画は小西英子さんです。(愛宕)



■ サンドイッチクラブ

長江優子作

四六判・238頁

▽本体1500円＋税

【小学5、6年から】

ヨナは九歳まで親のいない子どもたちが暮らす《ヨモギグク園》で育ちました。園長のヤードは神経質で子どもたちよりも「施設が間違いない運営できているか」を気にするタイプ。内気なヨナは心の中ではたくさん考えているのに、言いたいこともはっきり言えません。でも、ある日園にやってきたゴリラの《ゴリラン》の養子になつてから、そんな生活も一変します。

町外れの工場で廃棄物を言葉巧みに売りつけ、読書が何よりも好きなゴリラン。最初はおびえていたヨナも、一見こわそうでぶつきらぼうなゴリランがもつやさしさに触れ、とんでもない生活を楽しみ始めます。ところが、二人の暮らしは、町議会による土地開発計画に脅かされることに……。

作者のフリーダ・ニルソンはスウェーデン中南部で育ち、2004年に児童文学作家としてデビュー。ラジオ・テレビの脚本執筆、子どものための演劇指導、声優など幅広いジャンルで活躍。2014年アストリッド・リンドグリーン賞、2016年ニルス・ホルゲシヨン賞を受賞し、「新世代のリンドグリーン」と評される人気作家です。本作が初の邦訳となりますが、日常の延長にあるファンタジックでユーモラスな世界観に引きこまれること間違いありません。(松原)

■ ゴリランとわたし

フリーダ・ニルソン作／よこのな訳

A5判・192頁

【小学3・4年から】 *9月刊行予定

傷つけるのも、癒してくれるのも人

家族そろってプロレス番組に熱狂したり、トリビアゲームを楽しんでたりする団欒の時間が大好きだったヘンリー。ところが、長い間いじめに苦しんでいた兄のジェシーが、父親の銃を持ち出して事件を起こしたあの日、すべてが壊れてしまいます。

心の傷を抱えたヘンリーは父親と二人、べつの町に引っ越しします。そこでひっそりと暮らしているうち、なのに、学校では見るからにオタクのフアーリーが、アパートでは世話好きな隣人たちが、ヘンリーを放っておいてくれない!! セラピストのすすめでしぶしぶ書きはじめた日記に、ヘンリーは新しいできごと、そして封じこめていた兄との秘密や感情をぶちまけていきます。

13歳男子のユーモアをたっふりとまじえながら、残された家族の声にならない心の叫びと、そのあとに訪れる希望を丁寧に描いた、カナダ総督文学賞(児童書部門)受賞作。

装画は『ぼくはイエローで〜』の中田いくみさんです。泣きたくなるほど魅力的な登場人物たちに、ぜひ出会ってください。(愛宕)

■ぼくだけのぶちまけ日記

スーザン・ニールセン作/長友恵子訳

四六判・286頁 ▽本体1700円+税 【中学以上】



本に隠されたメッセージ

「はじめまして、だれかさ〜ん!」

少女が図書室の本に挟んだ手紙を、

ある日少年が見つけます。手紙の隠し場所の

『ブークが丘の妖精パック』から名を取ってダンとユーナと呼び合うことを決め、直接には会わないという約束を交わしてやりとりを重ねる二人。日常の出来事や関心を語り合い、お互いがどんな人間なのか想像をふくらませていくうちに強く惹かれ合う一方、二人の手紙には怖れや不安の影もちらつきます。ダンとユーナをはじめ十代の少年少女が過す、謎めいた「研究所」の実体もじわじわと明らかに。なぜ森の奥深く、隔離されるように建てられた施設の中で、子どもたちは厳格に管理されているのか。二人の心の揺れや高まりと、ミステリアスな背景が交差し、お互いの友人たちも巻き込んで物語は急転します。

謎が解き明かされていく冒険小説としてのスリル感。親子関係や社会問題を反映したディストピア小説としてのメッセージ性。ティーンエイジャーの微笑ましくも激しい恋の過程。書簡体小説という構成をたくみに用いた、切なくも清々しい物語です。(松原)

■紙の心

エリーザ・プリチェッリ・グエッラ作/長野徹訳

四六判・256頁

▽本体1700円+税 【中学以上】 *8月刊行予定



ほんとうのリーダーのみつけかた

新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会のあり方が急速に変わっていきこうとしています。「この未知のウイルスは、人の体だけでなく、心や社会の結びつきまで攻撃しているかのようで、若い方々が親たちの世代も経験したことのないような、まるで戦時下のような緊張や抑圧を強いられていることに、いたたまれない思いです」——そう語る梨木香歩さん。

この本には、梨木さんの岩波現代文庫版『僕は、そして僕たちはどう生きるか』の刊行を記念して2015年に行われた講演録のほか、関連する二つのエッセイを収録しています。

『僕は、そして僕たちは……』は、吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』への、梨木さんの一つの回答であり、愛国心を強制する動きへの違和感が執筆のきっかけでした。理論社のウェブサイトで『僕は、そして僕たちは……』の連載が始まった2007年、岩波現代文庫版が刊行された2015年、そして、コロナ禍に見舞われた今年と、社会がだんだん歪ひずみになっていくなかで、やむにやまれぬ思いで、梨木さんは本書を送り出されます。ひろせべにさんのニュアンスに富む装画とともに、じつくりとお読みいただければ幸いです。（藤田）



■ほんとうのリーダーのみつけかた 梨木香歩 著

B6判・80頁 ▼本体1200円＋税

ジュニア新書編集部より♡

電子書籍のこと

アメリカの公共図書館に勤務している知人から、「アメリカの図書館で貸出し可能なジュニア新書の電子書籍はないのか」と問い合わせを受けました。新型コロナ感染対策による外出制限のなか、現地に住む日本人の方々から、子どもが読める日本語の電子書籍の要望が図書館に多く寄せられているそうです。

アメリカでは9割を超える公共図書館で電子書籍を扱っているそうです。日本の公共図書館では電子書籍はまだ多くありませんし、子どもの本の電子書籍化にはさまざまな議論もあります。ジュニア新書は電子書籍化を進めています。多くの図書館に配信している状況ではありません。

家で過ごす時間が多くなっている子どもたちがいつでも好きな時に好きな本を読める環境をどのように整えていくか、これまで以上にみんなで知恵を出し合って考えて創意工夫をしていくことが大事だと思っています。（ジュニア新書編集部Y）

ジュニア新書もTwitterをやっています！

目印はジェッピーのアイコンです。

@wanamijunior



2020夏

少年文庫フェア 冒険してる？

全国の協力書店にて、創刊70年を迎えた岩波少年文庫フェアが
じまります！ 店頭に並ぶのは、朱色の帯付きの歴代の人気タイ
トルたち。

対象の本をご購入くださった方には、読書をサポートする**魔法
のしおり**(リーディングルーラー)をプレゼント！ 宝地図風のリー
フレットもご用意いたしました。さらにご応募いただくと、キャ
ッチフレーズにちなみ、**記念ロゴ入りの双眼鏡**(ビクセン社製)を
抽選で3名様、さらにダブルチャンスで**特製パンダ**を200
名様にプレゼントいたします！ ふるってご応募ください♪

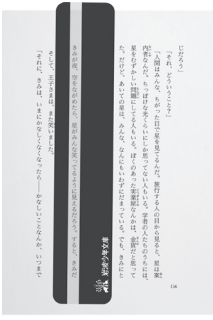
【フェア書目】

星の王子さま／クマのプーさん／ドリトル先生アフ
リカゆき／ライオンと魔女／トムは真夜中の庭で
冒険者たち／クローディアの秘密／風にのってきた
メアリー・ポピンズ／モモ／ふたりのロツテ／あ
のころはフリードリヒがいた／ホビットの冒険 上下
／長い長いお医者さんの話／長くつ下のピッピ／床
下の小人たち／ムギと王さま／ネギをうえた人／み
どりのゆび／ツバメ号とアマゾン号

上下／はてしない物語 上下／古
事記物語／科学と科学者のはなし／
長い冬／宝島／雪は天からの手紙／
第九軍団のワシ／影との戦い



双眼鏡で冒険者になれる!?



【編集後記】

▼先号をお届けしてから半年の間に、新型コロナウイルスの影響
で世の中は一変してしまいました。みなさま、ご無事でした
でしょうか。外出自粛が長引くなかで、読み物、それも大部な本
の動きがよかったと書店さんから聞きました。読書を楽しむ時
間が、これからの新しい日常でも定着しますように。

▼今年がピッピが生まれて75年！ 小社のウェブマガジン「たね
をまく」に掲載の特集「アストリッド・リンダグリーン」では、
新訳を手がけられた菱木晃子さんの記事「リンダグリーンを振
り返る」をお読みいただけます。

▼<https://tanemaki.iwanami.co.jp/categories/659>

▼さらに、今年ドリトル先生が誕生して100年！ 映画『ド
クター・ドリトル』もはじまりました。また映画『ストーリー・
オブ・マイライフ わたしの若草物語』も公開中です。

▼『せん』『ヒキガエルがいく』が、全国SLAへえほん50に
選ばれました。ともに韓国の作家による斬新な絵本です！

2020年7月1日発行〈第60号〉

【編集・発行】岩波書店 児童書編集部

〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-1-5

電話 03(52110) 4058

FAX 03(52110) 4127

<https://www.iwanami.co.jp/hensyu/jidou/>

*お送り先の変更や本誌送付の停止のご連絡は右記へお願いします。
メール itoshio1@iwanami.co.jp でも承ります。

【印刷所】サンパートナース株式会社